



fishive! < 羽毛田丈史音楽書庫 > since 2003.12.06



TOP

CDレポート

LIVEレポート

TV・ラジオ

雑誌・書籍

インタビュー

get you!

M.F.T.

BBS

NEWS

ギャラリー

traces

サイトマップ

2003.3.7 リリース 「魔法遣いに大切なこと」オリジナル・サウンドトラック (PIONEER LDC PICA-1271)

<アニメ「魔法遣いに大切なこと」>

アニメ「魔法遣いに大切なこと」は、2003年1月9日から3月27日まで、毎週木曜日の深夜にテレビ朝日で放送されました(CS放送は1月28日から4月19日)。

山田典枝氏の原案・脚本、よしづきくみち氏のキャラクター原案のこのアニメーションは、魔法を使う力を持った人間がこの世の中に存在していて、しかも公務員として認められている(管轄は「魔法労務統括局!」)というユニークな設定。17才の魔法能力者菊池ユメが、魔法見習い研修を受けるために岩手県の遠野市から上京し、たくさんの人と出会い、いろいろな経験をへて「魔法遣いに大切なこと」を学んでいくというストーリー。

地上波では、深夜2時すぎからの放送(大相撲やイラク戦争勃発の影響で、さらに遅くなったこともしばしば…)で、しかも関東地方限定という制約があまりにも残念なほど、素晴らしい作品でした。特に音楽の素晴らしいさは初回から際立っていて、心洗われるようなピアノの旋律や、ケルティック調のアレンジなど、何度でも聴きたくなるようなものばかりでした。

<オリジナル・サウンドトラック>

内容も面白かったのですが、とにかく音楽が聴きたくて、毎週夜更かししました。

番組ではどうしてもそれぞれの曲を部分的にしか聴けないので、曲全体を聴いてみたいというのあって、サントラが発売されてやっと手にしたときは、本当にうれしかったです。

このアルバムには、羽毛田さんのソロ・アルバムに収録されていて、2003年の“live image3”では生演奏も披露された「この空と大地の出会い場所」をはじめ、全部で37もの曲が収録されています。その中には田岡美樹さんと市川裕一さんのユニット“the Indigo”が歌うエンディングテーマと挿入歌も含まれています(両曲とも羽毛田さんはアレンジで参加)。

演奏するのは、羽毛田サウンドになくはないミュージシャンの面々。

今ではすっかりおなじみの安井敬さん、マリさんご夫妻(アイリッシュ・ホイッスルやリコーダーの演奏家。敬さんは“高原へいらっしやい”や“もし翼があったなら”、そして去年羽毛田さんがゲスト出演したNHK「スタジオパーク」でも共演されました)との初めてのお仕事でもあります。

演奏に使われたピアノは、すべて羽毛田さんお気に入りの“ベーゼンドルファー”。

透きとおった高音がとても印象的です。そして最近ではめずらしいようですが、全曲シンセサイザーはほとんど使っていないとか。これは、楽器の編成を限定することで、全体の質感を統一するため。この音楽制作では、曲やテンポが変わっても、全体の質感が保たれることに気を付けたそうです。

<ブックレットが“ハケボジ的に”すごい！>

よしづきくみち氏書下ろしのイラストが表紙のブックレット。これがすごい！

まず、羽毛田さんがこの全37曲に対して、とてもユニークな解説を書いているのです。

これは必見。ちなみに、楽曲のタイトルは、監督の下田正美さんが付けたそうです。

さらに、このアニメを制作した角川大映映画の藤田敏プロデューサーと羽毛田さんの、4ページにわたる対談。これがとっても面白い！

羽毛田さんは甘いもの好きだけでなく、「かなり漫画好き(少年チャンピオンは創刊号からの読者)」という事実が明らかになったり、「(この音楽制作では)曲を作るベースがいつもよりも3倍から4倍くらいかかってしまった」、「悩みが入ってしまって、録音してない曲が4曲ぐらいある」、「アニメーション監督の下田正美さんから『アニメつぼくない音楽』『アイリッシュやケルト音楽を』というオーダーがあった」などの制作秘話も読むことができます。

< 楽曲レビュー >

1. この空と大地の会おう場所 <メインテーマ>

羽毛田さん自身「とても気に入っている」という曲。ソロ・アルバムバージョンでは、後半ストリングスが主旋律に合流しますが、こちらのオリジナルバージョンでは女の子たちのコーラスがいっしょに歌います。

羽毛田さんがこの作品に対して最初にイメージしたのは「どこかヨーロッパ中世の雰囲気が残る田園地帯、懐かしさと透明なすこし草のにおいのする風」だそうです。

私が番組でこの曲を最初に聴いたとき、まず浮かんだのは、緑の草とさらさら流れる透明の水でした。

曲の冒頭の部分を、「魔法遣いに大切なこと」の公式サイトで、イメージムービーとともに視聴できます。(2004.1.6現在)

2. 真夏の夜のユメ <ユメ テーマ>

主人公菊池ユメのテーマ。番組の中でもよく流れていた、とても印象的な曲。

羽毛田さんのピアノの「暖」な音色が響く、ゆっくりした曲です。

やはり女の子のコーラス隊がいっしょに歌います。

ユメとちよほど同じくらいの女の子10人に歌ってもらったそうです。バックには押さえ気味のストリングスとハーブ。

3. 氷の心～君去りし後 <小山田テーマ>

小山田雅美は、とても美形なユメの研修担当指導官。

なんと「第弐級魔法導師労務免許保持者」でバリ出身！

「小山田には秘めた過去が、あるらしい。いまの段階では僕も知らない。(中略) 一体どんな過去なんだろう。」とコメントにあるとおり、ピアノの旋律もやさしく美しい部分と妖しい影のある部分が折り重なります。

4. 向日葵～光の風に包まれて <ケラ テーマ>

小山田はなぜかサルサバーを副業で経営している。そこで働く青年ケラのテーマ。

つらい過去を持つみただけど、明るくさわやかでやさしいピアス青年。

西海さんのギターのイメージがぴったりです。

西海さんは「僕のサウンドになくはならない人です」と羽毛田さん。

5. 金色の日差し <ギンブン>

華麗なるストリングスとハーブとティンパニーのスケール感あふれる曲。

朝川朋之さんのハーブがとても美しい。

ギンブンは日本で唯一の魔導司行動免許保持者にして魔法労務統括局局長。

個人情報はずべて非公開というナゾの男(でも外見はかなりハデ)。

とても大きなお屋敷に住んでらしく、「お屋敷の扉をあけると、おおきな階段をさっそうと降りてくる情景を思い浮かべて」作ったそうです。

6. 初めての依頼

やはりストリングスとハーブとティンパニーの壮大な感じの曲。

魔法遣いは魔法を使って依頼者の要望に応えますが、ユメにも初めての依頼が。

その期待と不安とドキドキ感が伝わってくる曲です。

7. トモダチ

「ここからはアイリッシュコーナー」とあるとおり、アイリッシュアレンジの曲が続きます。

これが番組でとても新鮮でした。深夜のアニメでこんな曲を聴けることにびっくりした人も多かったのでは？

ティン・ホイッスル、ギター、コンサルティーナ、フィドル、ポーランという本格的な編成。

メインテーマがアイルランドの伝統的なスタイルの曲にアレンジされています。

8. 思い出の風景

アイルランドのギターの名器ローデンがやさしく伴奏する、アイリッシュ・ホイッスル

(たぶんロー・ホイッスル?)のゆっくりした曲。アイリッシュミュージックでよく使われる

8分の6拍子でメインテーマがアレンジされています。

9. Pachangaの日々

この曲を番組ではじめて聴いたとき、いっぺんで気に入ってしまいました。

ユメが初めて来た東京の街を元気よく歩く場面で使われていました。

メインテーマをJIGというアイリッシュの代表的なスタイルでアレンジした曲。

跳ねるようなにぎやかな感じが、若くて好奇心旺盛なユメにぴったりでした。

10. 河童の故郷

アニメのサントラで、こんなに本格的なアイリッシュ・チューンが聴けるなんて。

しかも、演奏するのは日本のアイリッシュ音楽を代表するプロの皆さん。

聴き入ってしまいます。贅沢。REEL(アイリッシュの代表的な4拍子スタイル)の曲で、

ティン・ホイッスルが歌いまくりです。

11. ワスレナイ…

この曲で使われている弦楽器はなんだろう？と不思議でしたが、リュートだとわかって納得。

リュートはとてもめずらしいヨーロッパ中世の楽器で、演奏されている金子浩さんは、

羽毛田さんがその演奏を聴いたとき「日本にこんな演奏家がいるのか」と驚き、この楽器の

「音の深遠さにもとても魅了されて」、作品への参加をお願いしたとか。

メインテーマがまた違った味わいに。ヨーロッパの古城の庭園を歩いているみたいなき。

12. 月の光の下

ハーブによる「ユメのテーマ」。やさしく落ち着いた音色に、私はユメのお母さんの顔がちよっと見えたような気がしました。演奏するのは、羽毛田さん大絶賛の朝川朋之さん。どんな曲も、ほとんど1回で完璧に演奏してしまわれるそうです。かずかずのお仕事をともにされています。

13. 朝御飯～今日も元気

「オーガニックなカントリーミュージックが作りたくて」できた曲だそうです。羽毛田さんはエンディングのフレーズが好きとか。う～んなるほど！カントリーだ！西海さんの真骨頂？

14. PAIN ー痛みー

リュートの音は、ギターに比べて憂いがあるというか、昔栄えたけど今はなくなってしまったものを惜むような、寂寥感を感じます。この曲は、リュートをイメージして書き下ろした曲だそうです。

15. 気持ちが魔法

14の曲をハーブとリコーダーのために編曲したもの。リコーダーは「みなさんが学校で吹いたこともあるかもしれない」アルトリコーダーと、バスリコーダーだそうです。羽毛田さんも中学生のとき吹きましたよ、アルトリコーダー。

16. 熱き狂騒

原作者の山田典枝さんにはいろいろ好きなものがあって、それらを作品の中に取り入れたそうですが、サルサもそのひとつとか。小山田の経営するサルサバー“Pachanga”でのBGM。羽毛田さんによるとサルサにもいろいろあって、番組用にはニューヨーク系サルサ、キューバ系サルサ、あまりサルサっぽくないラウンジ系サルサという3種類を作ってみたそうです。サントラに入っているのは、そのうちのニューヨーク系のもの。

17. どこまでもまっすぐに

桑野聖カルテットによる弦楽四重奏の「ケラのテーマ」。やはりどこまでも明るくさわやか。そしてとってもいい人そうな響き。

18. 人として魔法遣いとして

弦楽四重奏による「小山田のテーマ」。「違いのわかる男な感じ」だそうです。上品で、清廉な感じ。

19. ボクたちの未来

弦楽四重奏のメインテーマ。ピアノによるメインテーマもよいですが、これも秀逸。クラシックの小品集のようです、このアルバム。

20. キドコロネ～うたたね～

「ケラのテーマ」を、ギターの西海さんに「New Age風に」とお願いしてできたバージョンだそうです。「ふとした思い付き」で曲が生まれることが、羽毛田さんの場合「とても多い」そうです。ふむふむ。

21. 魔法の行方

14のリュートの曲を、今度はギターとマンドリンで演奏しています。「ちよっとへこんだときに、家に帰って1人で泣いちゃう感じ」だそうです。いっぺんやってみるか。

22. 花言葉は“愛情”

「小山田のテーマ」のギターデュオ・バージョン。メロディーを奏でるガットギターは、ゴンチチのゴンザレス三上さんからお借りしたとか。

23. 胸懐

この曲を聴くだけでも、このサントラを買ったかいがあるかも。羽毛田さんがイメージの浮かぶままに、メインテーマを即興で弾いています。もちろんピアノはベーゼンドルファー。

24. 『心をこめて』

「ユメのテーマ」のピアノソロ。ベーゼンドルファーは奥行きが深い音が出る楽器だなあとかねがね思っていました、この透明感もすばらしい！

25. 希望の詩

「小山田のテーマ」のピアノソロ。清廉、そして相変わらず上品な感じ。オリジナルバージョンほどは人生の陰影は感じないけど、「どっちにしても得な男には違いない」と羽毛田さん。

26. 青天白日～すべて世はこともなし

「ケラのテーマ」のピアノソロ。この劇件の作曲で徹夜続きのまま、レコーディング初日を迎え最初に録音したのが各ピアノソロ曲だそうです。「弾いてる自分が癒されたい」という思いがひしひし伝わってくる(?)作品だそうです。

27. クリア / the Indigo

田岡美樹さんのクリアな歌声が、このアニメにぴったり。アンビエントな感じのサクソもかっこいい。エンディング・テーマのカップリング曲だが、「カップリングにしておくにはもったいない程いい曲」と羽毛田さん。

28. UNDER THE BLUE SKY / the Indigo(TV EDIT)

セリフの言葉数の少ない「沈黙系」のアニメ、そしてこの劇伴音楽ですっかりその世界にひたってしまった頭を現実に引き戻してくれるエンディングテーマ。

若くて明るくてさわやかだけど、どこか落ち着きを感じる声です、田岡さん。

29～37. Eye Catch (9type)

こんなものまで収録されているなんて！

番組で劇伴に負けないくらい印象的だったのが、この「アイ・キャッチ」。

CMIに入る前や本編に戻る前に鳴る短いピアノフレーズですが、これがとても美しかったです。

全部ピアノで作ることに決めていたそうで、スタジオで即興で作ったとか。

思い付いたらすぐ録音していくスタイルが楽しかったそうです。

< MUSICIANS (1～26) >

Acoustic Piano/ Programming 羽毛田丈史

Percussions 大石真理恵

Guitar/Mandolin 西海 孝

Tin whistle/Recorder 安井 敬、安井マリ

Concertina/Bodhran 柳澤聡美

Strings 桑野聖strings

Lute 金子 浩

Harp 朝川朋之

< MUSICIANS (クリア/the Indigo) >

Programming 市川裕一

Acoustic Guitar 西海 孝

Sax 正富一成

< MUSICIANS (UNDER THE BLUE SKY/the Indigo) >

Hammond B-3/Programming 羽毛田丈史

Acoustic Guitar 堀越信泰

Dobro/Electric Guitar 西海 孝

Bass 渡辺 等

Drums 杉野寿之

このサントラは、発売日当日手に入らなくて、取り寄せる間数日待たなければなりませんでした。

その数日の長かったこと。それほど、どうしてもほしくて仕方ありませんでした。

丁寧に、本当に丁寧に作られた音楽が集められています。

私の「あの世に連れて行きたいアルバムベスト5」上位にランクインしています。

(kingyo 040106)

[このページのトップへもどる](#)

[1つ前のページへもどる](#)